

日本CIGRE国内委員会 第11回SC委員長会議 議事録

日 時： 平成21年 7月 15日(水) 13:30～17:20

場 所： 自動車会館 1階会議室

出席者： 各 SC 国内分科会委員長, JNC 委員長, 副委員長, 幹事団他

議 事:

1. 開会挨拶: 田井委員長

- 「最近, エネルギー問題が話題になることが多くなってきた。我々も, いろいろな場で議論していきたい。」

2. CIGRE 本部執行委員会 議事概要について: 田井委員長

- 5月4日にスペイン・セビリヤで開催された本部執行委員会の概要を紹介。
 - Kowal 事務総長は2010年で退任。
 - Froelich TC委員長の続投は全会一致で支持。
 - TC委員長より, 各SCへの若手への参画について, 各国NCが計画的に行うよう要請。
 - SC委員長の交代にあたっては, 会社の支援が十分に受けられる候補者が少なくなっている。
 - 2010年パリ大会開会式での招待講演者をアジア地域から推薦するよう, 田井執行委員にとりまとめ要請。
(この件について幹事から補足説明あり。下記12項参照)
 - 会員数は, 欧州とりわけ英国において顕著な伸びがあった。

3. 2010年第43回パリ大会論文投稿状況について: 福井幹事

- 4月8日に開催された論文委員会の結果を踏まえて, 日本から33件の論文を本部に投稿し, 受信確認があったことを報告。

4. CIGRE 会員数の推移と会員数拡大について: 目黒幹事

- 以下の理由により, JNCとして会員数拡大が急務であることを説明。
 - 日本が本部執行委員会の議席を, 選挙を経ないで確保するには, 等価会員数でアジア・太平洋地域で2位以内であることが必要。
 - 2008年・2009年の等価会員数平均では, 豪州と日本が同数で第1位。また第3位の中国が会員数を急増させており, 日本を上回るのは時間の問題と考えられる。
 - 2010年の選挙を意識すると, 本年10月末頃までに, 等価会員数を増やしておく必要がある。
- 会員数増大方策として, 以下の2項目を提案。ただしJNC規約の改正を伴うことから, 慎重に進めていくこととする。
 - 新団体会員への低減会費の導入
 - 若手会員の会費の一定期間無料化
- 上記の方向性について, 各SC委員長の了解が得られたことから, JNC規約の改正も含め, 具体的な進め方について幹事会・役員会で検討していくこととした。
- 各SC委員長には特に, 若手会員数の拡大について幹事から協力を依頼。(各SCあたり, 2～3名の個人会員/若手会員の増員を期待。)

5. History of CIGRE 取りまとめ状況について: 服部幹事

- 作成方針, 原稿の構成等について報告するとともに, 作成済み分の日本語原稿を紹介。
- また, 各SCへの執筆依頼内容(既に各SC委員長にメールで依頼済み)について説明。

6. 2010年レギュラーメンバー交代について: 定梶幹事

- SC日本代表レギュラーメンバーが6年の任期を終えて交代するにあたり, 円滑な交代のために早い段階で次期候補者を絞り込むこととし, 具体的には任期満了の2年前に原則として複数名の候補者を役員会に届け出ることとするを提案。
- これに対し, 各SC委員長から以下のような意見が出された。
 - 2年前に候補者を出すとすると, 現職者と違う会社から選出する場合, 会社から十分な支援が得られるかどうか保証がない。
 - 2年前とする根拠はないのではないか。
 - 次期候補者の会社の人事権者の了解を得る時間が必要。
 - 組織をまたがった委員長交代に関しては, SC委員長に任せるのではなく, JNC から具体的な方針を示して頂くとうれしい。
- これを受けて田井委員長から「交代の直前になって拙速に決めるのではなく, 時間的な余裕があるうちから, JNCと現職者の間で十分な意見交換を始めることが重要。2年前にこだわるものではない。」とコメント。

- これらを踏まえて、改めて幹事会で進め方を検討することとした。

7. 2011 年以降のSCミーティング日本開催について： 福井幹事

- 2011 年については SC-A2 および SC-D1 のSCミーティングの日本での開催が予定されているが、2013 年以降については未定であることを報告。近年日本で開催していないSCを中心に、積極的に日本に招致することを要請。

8. SC会議, WG・TF開催支援金の取り扱いについて： 定梶幹事

- JNC 予算から支出する WG・TF の日本開催支援金について、来年以降は以下のように扱いを変更することを提案。
 - 開催1回あたりの上限金額を引き下げ。
 - 使途に制約を設け、懇親会等については海外からの参加者の分のみに充てる。
- これに対し、各SC委員長から以下のような意見が出された。
 - 会場費などは参加企業のものを無償で使える場合も多く、結局一番費用がかかるのは懇親会費。また海外の参加者からは、「スポンサーはどこか」と聞かれることもあり、JNC がサポートすることは重要。上限金額を一律に定めるのではなく、出席者数などに応じて臨機応変に対応すべき。
 - これまでの経験から、昼間の会議よりもむしろ懇親会が重要である。今回の見直しの発端が懇親会の有効性を議論したいということであれば、この提案は納得しがたい。懇親会の必要性を認めた上で、論点が費用負担のあり方の問題であり、JNCとしてこれまでのように負担できないということであれば理解できる。
- これらを踏まえて、幹事会で再検討し、改めてメール等で意見照会することとする。

9. 本部 WG/TF メンバーの選出状況について： 福井幹事

- 2008 年5月以降、本部 WG/TF のメンバー選出にあたっては若手を参画させるよう、パリ本部事務局長から要請あり。その間に設置された本部 WG/TF のメンバーの日本からの選出状況を報告。
- 各SC委員長から以下のような意見。
 - 若手ばかりでは仕事が回らず、ある程度ベテランの参画も必要。各SCでは、どのようにその折り合いをつけるのか、決まっていないように感じられる。

10. JNC執行委員会開催時の指摘事項と対応について： 目黒幹事

- 昨年11月12日のJNC執行委員会での出席者からの意見に対する対応状況を紹介。
- 各SC委員長から以下のような意見。
 - 会員募集について。CIGRE は他の学会に比べて格が高いイメージがある。敷居を下げる努力が必要。

11. JNC HPの改訂状況について： 今川幹事代理

- 今年2月に実施したJNCのホームページの改定内容と改訂後のアクセス状況について報告。

12. 2010 年パリ大会の招待講演候補者推薦： 目黒幹事

- 第2項、5点目として、田井委員長から紹介のあった内容について、補足した。
- 現在のところ、アジア地域からの招待講演候補者として、電事連 森会長にお願いをしており、ご本人からもご了解をいただいていること、豪州、中国選出の本部執行委員に意見照会を行い、いずれからも支持を得ていること、パリ本部に対しても森会長を既に推薦したこと、講演のタイトルとしては、「低炭素化社会実現に向けた電力産業の取組み」を予定していることなどを紹介した。
- 招待講演の内容については、JNC内にワーキンググループを設置して内容を練り上げることとするが、各 SC には是非ともご協力を仰ぎたいとお願いした。

13. 各SCにおける活動紹介、他： 各SC国内分科会委員長または代理

各 SC の活動状況と予定等について、今年2月の JNC 総会以降の動きを中心に説明。

A1: 宮池委員長(東芝)

- ・ 2010 年パリ大会論文として2件を投稿。
- ・ SC 会議の日本開催は 2013 年か 2015 年に可能性あり。

A2: 白坂委員長(日本AEパワーシステムズ)

- ・ 白坂委員長が AG.A2.7「UHV Transformer AC & DC」の Convener として、SC-A2 内の UHV 関連情報取りまとめ、および関係 SC/WG ヘリエゾンとして参加。
- ・ 2009 年コロキウムは8月に南アフリカ・西ケープタウンで、A3, B3 と合同で開催。
- ・ 2011 年にコロキウムを SC-D1 と合同で、日本で開催予定。日程は 10 月 31 日(月)～11 月4日(金)を主

案、開催地は京都を中心に検討中。

- ・ 2010 年パリ大会論文として NA, AA を各1件投稿しているが、内々の情報では、NA が既に多数投稿されており、AA の採択は厳しそう。

A3:伊藤委員長(三菱電機)

- ・ 本部アドバイザー会議を3月3日にパリで開催。WG A3.22(主査・伊藤委員長)における UHV 調査活動を報告。
- ・ 8月に南アフリカで A2 および B3 との合同コロキウム予定。

B1:片貝委員長(シェイ・パワーシステムズ)

- ・ AORC パネル B1 を昨年 11 月 25～26 日にタイ・バンコクで開催。
- ・ 2010 年パリ大会論文として NA, AA を各1件投稿しているが、B1 議長から、論文数が非常に多いため、不採択を余儀なくされるものが多いのでご容赦をとのメールを受信。

B2:前川委員長(電源開発)

- ・ 2010 年パリ大会論文として2件を投稿中。
- ・ SC 会議の日本開催は、2017 年なら可能性あり。

B3:小林委員長(東京電力)

- ・ 8月に南アフリカで A2 および A3 との合同コロキウム予定。
- ・ 2011 年5月にアメリカ・シカゴで IEEE と共催のコロキウムを開催予定。
- ・ WG B3.22 を3月に東京で開催。UHV 変電所の技術要件を取りまとめた最終報告書案を審議。NHK が取材、日本発の国際規格活動の特集として放送予定。
- ・ 2010 年パリ大会論文として3件を投稿中。

B4:高崎委員長(電力中央研究所)

- ・ 6月にノルウェーで SC 会議およびコロキウム開催。CIGRE 大での課題となっている「次世代ネットワーク」についてはB4としても積極的に関与していくと本部 SC 委員長が表明。
- ・ 2010 年パリ大会のスペシャルレポーターの1人を高崎委員長が務める予定。
- ・ 2011 年 SC 会議はオーストラリア、2013 年 SC 会議はブラジルの予定。

B5:伊藤委員長(中部電力)

- ・ 10 月に韓国・済州島でコロキウム開催予定。
- ・ 2010 年パリ大会論文として1件を投稿中。
- ・ SC 会議の日本開催は、2013 年または2015 年の誘致を目指す。前委員長が他SCとのジョイント開催を嫌っていた。
- ・ 電気学会保護リレーシステム技術委員会との連携を進めている。

C1:高野委員長(関西電力)

- ・ 10 月に中国・桂林で、C1, C2, C5 合同のシンポジウム開催予定。
- ・ 2010 年パリ大会論文として1件を投稿中。
- ・ 2011 年の SC 会議はブラジルで開催予定。
- ・ WG C1.19(主査・GE 鈴木氏)を 12 月に日本で開催する可能性あり。

C2:長江委員長(中国電力)

- ・ 10 月に中国・桂林で、C1, C2, C5 合同のシンポジウム開催予定
- ・ SC 日本開催は、2013 年招致に向けて手を挙げていく。

C3:中神委員長(関西電力)

- ・ 9月にポルトガル・ポルト市で SC 会議およびコロキウムを予定。
- ・ 2011 年 SC 会議はイスラエルに決定。2013 年の日本開催は可能性あり。

C4:本山委員長(電力中央研究所)

- ・ 6月に SC 会議およびコロキウムを釧路で開催。
SC 会議では、本部 SC 委員長から、AG の数の見直し・再編成等の活動方針見直し結果の紹介があった。
- ・ 2011 年はブラジル・レシフェでシンポジウム開催予定。
- ・ 6月にクロアチア・サラエボで、「電力周波数における ELF-EMF」に関するジョイントコロキウム(B2,C4,B1,B4,C3)を開催。
- ・ 2010 年マレーシアで「雷と電力系統」をテーマとするコロキウムを開催予定。

C5:岡本委員長(東京電力)

- ・ 10 月に中国・桂林で、C1, C2, C5 合同のシンポジウム開催予定。
- ・ 2011 年 SC 会議はオーストラリア。アジア太平洋が続くため、2013 年の日本開催は難しく、2015 年は可能性あり。
- ・ 2010 年パリ大会論文として1件を投稿中。

C6:小林委員長代理(東京電力) 大山委員長(横浜国立大学)欠席のため代理出席

- ・ 7月 29 日から、カナダ・カルガリーで、IEEE/PES と共同でシンポジウムを開催。

- ・ 2011 年の SC 会議開催地は、カルガリーでの SC 会議で決定する。2011 年がアジア開催でなければ、2013 年の日本開催は可能性あり。
- ・ 2010 年パリ大会論文として3件を投稿中。

D1: 長尾委員長(豊橋技術科学大学)

- ・ 9月にハンガリー・ブダペストで SC 会議およびコロキウム開催予定。
- ・ 2011 年 10 月に、SC-A2 と合同で、京都でコロキウム開催予定。
- ・ 5月に名古屋で WG D1.15 開催。
- ・ 2010 年9月に International Conference on Condition Monitoring and Diagnosis を CIGRE との連携のもとに東京で開催予定。
- ・ SC-D1 はこれまで、絶縁技術以外に、燃料電池、風力、太陽光などの先進技術について検討を進める方向を打ち出してきたが、先進試験技術に、よりのを絞っていくことが TC で認められた。

D2: 山崎委員長(九州電力)

- ・ 10月にSC会議およびコロキウムを福岡で開催予定。電気新聞九州支局を通じて積極的に広報を行いたい。各 SC 関係者も是非ご参加いただきたい。

14. その他

- 幹事から、C1, C2, C5 の中国シンポジウムに AORC が併設される可能性があり、コントリビューション依頼が直前に来る可能性があることを報告し、AORC 開催の際には該当 SC に協力頂くよう、依頼した。

15. 閉会挨拶: 横山副委員長

- 本日の打合せで、各SCが日本のプレゼンス向上に向け、いろいろな努力をしていることが理解できた。
- また、CIGREの敷居を低くすることで、より多くの方に検討に加わっていただくことができ、さらに活発な論議ができそうとのご意見もいただいた。今後、検討を継続していきたい。
- ‘History of CIGRE’ のとりまとめなど、各SCのご協力が不可欠な項目もあることから、引き続き、ご支援をお願いしたい。

以 上